

時事新報

電氣を人間の實用に供するの術は近來非常の進歩を現はしたる其中にも昨年以來米國に於ける蓄電池の發達は最も遙に最も驚く可きものにして是れが爲め一般の電氣事業に一大飛躍を惹起さんとするの徵候わりと云ふ抑も蓄電池とは字義の如く電氣を蓄ふる器械にして其方法には種々様々の別あれども要するに或薬品にて電氣を仕掛けて化學上の變化を起さしめ他日其變化したる薬品が再び元の状態に復する際に發する電氣を利用するの趣向にして事の道理は例へば若干の力を費して時計の彈機を捲結め置くときは其彈機が自から延びて元の形状に復する際に始め現はれたる力を略ば同量の力を發するものに異ならず電氣を貯蓄する方法の始めて發明せられたるは實に數十年前の事なれども極めて近年に至るまでは唯學術上の一奇事として知られたるまでにして之を實用に供するの望なかりし處、一兩年以前より之に關する新發明の續々現はれ出でたる結果として蓄電池も今は實際に應用して充分に見込ある有益の道具とはなれるものゝ如し近着の米國電氣雑誌エレクタリカルレガキウに左の記事あり亦以て蓄電池問題が如何に後國實業社會動搖の原因となれるかを知るに足る可し

五六箇月間に近來未曾有の進歩を現はし今や實に實業世界の一大勢力と爲る可き模様あり現に貴府蓄電池會社の如きは其株式の價値に暴騰し僅に三四箇月前には四十粍内外の相場よりしきものが目下七十粍乃至八十粍を以て賣却せらるゝに至れりと云ふ近頃は我國にて最も次第に電氣事業の流行を催はし來りたれば世間一般に盛んに蓄電池を使用するの時期も遠からずして到來するに相違ある可らず世の實業に從事する者の頗る注意研究す可き所なり

○告 示  
官示第一號  
明治二十八年十二月十四日  
告示第百七號  
公債額面二十五萬圓  
但發行價格證書額面  
二十八年大藏省令  
明治二十八年十二月十四日

之進歩を現はし今や實に實業に就く  
機様あり現に費府蓄電池會社  
に累屬し僅に三四箇月前に  
しきものが目下七十號乃至八十  
号れりと云ふ近頃は我國にて  
はし來りなれば世間一般  
時期も遠からずして到來す  
業に從事する者の頗らくな  
ト明治十九年勅令第六十六號整理公債  
規則明治十九年勅令第六十六號整理公債

右の如くにして露獨兩帝の間廷  
人、戰時に於ては九十五  
萬の陸軍は平時に百十  
十萬人なりと云ふ  
○露獨兩帝の間廷  
是までとても首て不<sup>可</sup>  
事わりしならんには比  
不得す獨帝は露帝にし  
義に對する歐羅巴文四  
open Civilis station  
る諷諭を贈鳴たり此書  
如何未だ漏れ聞えず  
御大層なるとに據て目  
察せらる探ふの書状  
ンモルトケ伯は露帝  
即ち露帝の身朝ラ伯  
亦深宮の内より出木  
於ては獨帝御贈物持參

五萬八千人	九人	合口千人割する割合
一八萬人	十三人	
一萬五千人	十四人	
一八萬人	十人	
一萬人	一人	
三萬人	六人	
二萬千人	四十五人	
萬人	六人	
千人	八人	

午前十時三十分	着御陵清軍兩千人 諸國御使官等 皇族の時事報道 此報道
大院宣兩軍大將軍 大粵族其側衛生 大納任官一等二 服)	次後官列 <small>此報道</small> 次神功列 <small>此報道</small> 次神功列 <small>此報道</small> 次宮司廳で再開 次開風(官司司 次退下
先づ早日本誠社 午前第四時	右學で尋 昇殿御宣以降 次官司道で再開
水開風(官司司 水開風(官司司	